

令和2年度

生徒と教師で挑戦

オンライン

PDA即興型英語ディベート

PDA全国高校即興型英語ディベート合宿・大会編 2020

1. 英語ディベート学習会について

今年度も全学年の生徒を対象に公募を行った。その結果、1学年、2学年から8名の生徒たちが参加し、英語ディベート学習会はスタートした。最初は反論や再構築の部分がないAREA構造のディベートシートを使用して練習を積んだ。その後、モデルディベートのスクリプトなどを多く用いて反論や再構築の仕方だけでなく、ディベートでよく用いられる表現やボキャブラリーも同時に学習しながら実践練習につなげていくスタイルで学習活動を行った。全国高校合宿・大会が今年度はオンラインで行われることになり、参加することができた。その後、英語ディベート学習会は10月31日に行われる神奈川県交流大会（学力向上重点校・エントリー校全17校出場予定）に向けて日々、個人練習や集合練習に大変熱心に励んでいる。

2. 英語ディベート学習会の活動日程について

2020年7月7日（火） ， 7月14日（火）
2020年7月21日（火） ， 7月28日（火）
2020年8月4日（火） ， 8月7日（金）
2020年8月8,9日（土、日） PDA全国高校即興型英語ディベート合宿・大会2020
2020年8月18日（火） ， 8月25日（火）
2020年9月7日（月） ， 9月23日（水） ， 10月2日（金）
2020年10月3日（土） PDA即興型英語ディベート4校交流会
2020年10月6日（火） ， 10月20日（火） 10月23日（金）
2020年10月26日（月） ， 10月30日（金）
2020年10月31日（土） 令和2年度第6回PDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会
※予定の日程を含む

3. 教師の研修会・研究会について

神奈川県英語4技能指導法研究会（オンライン研修）全6回

4. PDA全国高校即興型英語ディベート合宿・大会2020出場メンバーについて

【Members】

小櫻 倭子（ベストディベーター賞）	Wako KOZAKURA
須田 絢音（ベストPOI賞）	Ayane SUDA
湯浅 汐梨	Shiori YUASA
小山 萌音	Mone KOYAMA

【Teacher, Coach, Judge】

井上 幹博	Motohiro INOUE
-------	----------------



5. PDA 全国高校即興型英語ディベート合宿・大会の motion (論題) について

(論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます)

1: A grade should be decided based on learning outcomes.

(学習成果に応じて学年を決めるべきである。)

2: A fat tax should be introduced.

(脂肪税を導入すべきである。)

3: Persons who spread a virus on purpose should be sentenced to death.

(ウイルスを故意に拡散すれば、死刑とする。)

4: Japan should accept more foreign refugees.

(日本はもっと難民を受け入れるべきである。)

5: Japan should legalize euthanasia.

(日本は、安楽死を合法化すべきである。)

6: A pet tax should be introduced.

(ペット税を導入すべきである。)

7: Authoritarianism is better than democracy during the COVID-19 pandemic.

(コロナ禍では、民主主義より権威主義の方がよい。)

8: A life imprisonment should be imposed on a person who lead others to commit suicide with slander.

(誹謗中傷で自殺に追い込んだ場合、終身刑を課す。)

6. 大会結果

予選ラウンド 1 : ○茅ヶ崎北陵ー平塚江南●

予選ラウンド 2 : ○茅ヶ崎北陵ー県立相模原●

予選ラウンド 3 : ●茅ヶ崎北陵ー聖光学院○

2勝1敗 (決勝進出ならず)

※練習ラウンドを除く

7. 総括

PDA 全国高校即興型英語ディベート合宿・大会は昨年度まで大阪府において1泊2日で開催されていたため、参加を控えていた。しかし、今年度はオンライン (ZOOM) で行われることとなり、地理的な課題も解消されたため参加を決定した。

全国の強豪校が出場する中で、本校の生徒たちは大変熱心に練習に取り組み、試合では正々堂々と論戦した。果敢に挑戦した生徒たちに敬意を表したい。生徒の皆さんと正解のない課題に対して本気で考え、多角的に物事を捉える時間はかけがえのないものであった。今後も、様々な社会課題に関する知識、スピーディーな思考力、そして論理的・感情的なわかりやすさを意識したコミュニケーション力、総称して「ドア・オープン力」をさらに磨いていきたい。

論破を目的としないディベートは21世紀の知的スポーツであると同時に、「空気」に支配されないための大切なコミュニケーションである。

最後にいま、この言葉を届けたい。

“You listen to the voice within, acting directly from will.”

「信じた道を進む、思いを行動に変えて。」